

福成会の

ちよつと素敵なた話

「きつと素敵なた話」

No. 6



ちよっと素敵なお話と聞いて「ちよっと」の価値観はさまざまだと考えさせられます。

ついつい相手を思いやって添えられる「ちよっと」その言葉がどれだけ見通しの持ちにくいものかを知ったのは入職して四か月経った頃でした。

今日は「ちよっと」とは言わず、「きっと素敵なお話」として話をしていきたいと思えます。

ちなみに、「きっと」は話し手が間違いないと推し量る気持ちを表す言葉になりますので、この話は間違いなく私自身が勝手に自信を持って話したい話ということです。素敵かどうかは読んでくれた方にお任せします。私に会った際に「素敵だっ

たで！」とささやいていただけたら幸いです…。

前置きは長くなりましたが、入職して早くも一年が経ち、春から二年目になりました。元々は幼稚園教諭を目指しており、福祉の道は視野にも入れていませんでした。

そんな私が福祉の仕事に出会ったきっかけは保育士資格取得のための実習でした。今だから言える話にはなりますが、「子どもに関わりたいのに、なぜ福祉施設へ、しかも大人の方の？」と実習にはかなり後ろ向きでした。

資格取得のためになら…と思いつつも、三が日明けの寒さが厳しい日から始まった二週間の実習はやはり乗り気になりませんでした。

しかし、実習初日の帰り道に窮屈なはずのスーツとパンプスがやけに軽やかに感

じたことを今でも鮮明に覚えています。

利用者さんは、当時の私よりも年上、人生の先輩です。

関わるなかで初めて知ること、学ぶことが沢山でした。「ここにはカッコイイス  
タッフさんがおってんで〜」「え？この曲知らへんの！？若いもんな…」などと事  
業所に長くいるからこそ知っている話や、利用者さんの世代の話まで、「なるほど！  
」となることばかりでした。

反対に、私が学校で練習していた曲をロズさんでみたり、私の好きなものを話し  
てみたり、ささいな言葉は利用者さんには驚きの連発のようでした。

その時に、技術や知識も働く上でももちろん大切かもしれませんが「私の好きなこ  
と」が利用者さんの人生経験や知識の幅を広げることができるとは思えないかとい

ことに気づきました。

利用者さんの話を聴き、思いをくみ取ることが第一ですが、私が経験してきた話をするのも同じくらい大切だと感じます。

入職して初めて迎えた夏のある日、利用者さんと話をした際に「休みの日どこいったん？」と聞いてくれる利用者さんがいました。私は「スイカを買いに行きました！スイカは今が一番食べごろでおいしいのでね！塩かけると甘いんですよ！」と休日にあったことをそのまま話をしました。

すると「今がおいしいのか！ってかスイカに塩っておいしいの！？」と目を見開いたり細めたり表情をコロコロ変えながら私の話に笑って返してくれたのです。

何気なく話したことが利用者さんの興味や機会につながってくれたことがとてもうれしかったです。

入職して二年目の夏を迎える今、全く同じ話を利用者さんへ話をする。「塩かけたら甘なるの知ってんでー!」「昨日こんな大きなスイカ売ってた!」と、話してくれました。私から聞いたことなんて全く覚えてない様子でしたが、それが何故かとてもうれしかったのです。当たり前のようにその利用者さんの知識として話してくれたことがとてもうれしく、知識や経験がまた別の人へとつながっていくその先を想像してふふふっとなりました。

お互いの知識や経験、そして出会いによって高めあえる利用者さんと支援員の関係性って素敵だと思いませんか。私は日々感じていきます。

私にしかできない利用者さんとの関わりはこれから先もずっと大切にしていきたいと思えます。